

## ●『死ぬ死ぬ詐欺』で恐慌、世界大戦へ

新型コロナ・ウイルスの致死率は0・1%以下。ふつうのインフルエンザより弱いくらいだ。それは、毎年流行している。では、インフルエンザでこれまで国境封鎖などがあつただろうか？ ロックダウン・外出禁止・営業禁止……。荒れ狂っている。私には現実のものとは思えない。人類は、間違なく狂氣に突入した。その背後に、それを仕掛けた『やつら』がいる。私はそれを『闇の勢力』と呼んでいる。あつさり言つてしまえば、『イルミナティ』だ。人類を闇から支配してきた連中だ。

彼らの目的は人類の健康破壊ではない。経済破壊なのだ。

ロックダウンでコロナ恐慌をくり出し、失業者を街に溢れさせる。そしてそれを軍隊が雇用する。必然的に軍事費はふくれあがる。いているのだ。

世界は軍国主義一色に染まる。さらに世界各国をブロック化する。資源・食糧・エネルギーを奪い合わせる。そこにマッチを擦つて投込めば一晩にして第三次世界大戦の勃発だ。そう、『生物兵器』コロナの最終目的は世界大戦なのだ。

『やつら』は第二次世界大戦もそうして起こしてきた。スペイン風邪→大恐慌→第二次世界大戦。まったく同じシナリオを描いているのだ。

まさか……と絶句している場合ではない。コロナ偽パンデミックは、別名『死ぬ死ぬ詐欺』である。そこで使われたのがPCR検査だ。開発者キヤリー・マリス博士は『感染症の診断・治療には絶対用いてはならない』と厳命している。なぜなら偽陽性率が80%以上！ PCRキットの『注意書』には「インフルエンザA・B型／肺炎ウイルス／パラインフルエンザ／クラミジア／マイコプラズマ

## ●スウェーデンの勝利にならえ

しかし、この『死ぬ死ぬ詐欺』は思わずところから露見した。それが、スウェーデンの快挙である。同国は、他国とは全く別の道を進んだ。それは『何もしない』という選択である。彼等はそれを『集団免疫』政策と呼んでいた。つまりは、通常のインフルと同じ。国民にあえて感染させる。そうして個々人の免疫力が高まれ

身边に潜むアブナイもの

No.148

## コロナ・5G・ワクチン —人類を地獄に墮とす 3点セット—



地球環境問題評論家

船瀬俊介

……など7つのウイルスにも『陽性』『反応する』と警告されている。だから、パンデミックの根拠に使われているPCRがペテンなのだ。しかし、世界のメディア・学界・政府は、この衝撃事実を完全に隠蔽している。なぜなら、これらはすべてイルミナティの支配下にあるからだ。『やつら』は第三次世界大戦で「兵器」と「金融」でボロ儲けを企んでいる。これらはユダヤ商人の永遠の金ヅルだ。

ば、逆にウイルスは感染力を失い、消えていく。だから、同国はロックダウンや外出禁止、マスク強制など、一切の規制はしない。ただ集会の自粛くらいのみ。そして、同国のコロナ感染数は欧米十三ヶ国では下位だ。経済的打撃も一番少なかつた。世界は、未曾有のコロナ詐欺にもてあそんでいる。とくに異質なのはマスメディアの犯罪だ。米CBSなどはキャスターが「病院に患者が到着している！」と危機感を煽った。しかし、市民グループが翌日、カメラを持って病院に行くと空っぽ。まさにマスコミも重大犯罪に加担していたのだ。

NY州のクオモ知事は会見で、「人工呼吸器が400台では足りない！3万台は必要だ！」と。しかし、病院の待合室は人氣ゼロ！コロナ詐欺の最大戦犯はマスコミなのだ。

## ●5Gは「電磁兵器」である

コロナが「生物兵器」なら、5Gは「電磁兵器」なのだ。5Gは、いわゆる「第5世代」通信。ここで、徹底的に秘密にされているのが、電磁波の生体有害性だ。それはニューヨーク州立大学医学部ロバート・ベッカー博士が、著書『クロス・カレント——電磁波・複合被爆の恐怖』(新森書房)で警告している。それは①成長細胞の阻害②発ガン性③ガン成長促進④神経ホルモン障害⑤自殺などを

⑥免疫系の混乱⑦ストレス反応⑧生理リズムの破壊⑨学習の障害……。5Gの危険性は、まさにこれら電磁波の危険性なのだ。

NY州のクオモ知事は会見で、「人々が電磁波の危険性など、病院の待合室は人氣ゼロ！」と。しかし、病院の待合室は人氣ゼロ！コロナ詐欺の最大戦犯はマスコミなのだ。

5Gの危険性は、まさにこれで、人々が電磁波の危険性など、病院の待合室は人氣ゼロ！」と。しかし、病院の待合室は人氣ゼロ！コロナ詐欺の最大戦犯はマスコミなのだ。

ている。さらに、周波数のミリ波は直進性が強い。だから少なくとも100m以内の間隔でアンテナを設置する必要がある。

だから市街地などの電信柱、公衆電話ボックス、さらにはマンホールにまで5Gアンテナが設置される。街を歩いていると四方八方から、あなたは有害電磁波のシグナルを浴びることになる。逃れようはない。

●ムクドリが落ちた、牛が倒れた！

5Gの有害性は、適当なことに推進側が、続々と実証している。オランダのハーグの駅で5G実験電波を流した瞬間に、隣接する公園や少し離れた地面にムクドリが次々に落下。その数は確認されていかわらず、すべて有害である。いるだけで297羽に達した。

カナダの海軍大佐は、著書の中で衝撃の警告をしている。

## ●脳がハッキング、「自殺」「殺人」

5G電波で、もう一つ恐ろしいのは、脳がハッキングされることだ。すなわち、強力なマイクロ波照射は、脳の「思考」「感情」「感覚」などをコントロールできるようにする。たとえば、1991年の湾岸戦争のとき、すでに米軍側はこの技術を完成させている。

それは「コマンド・ソロ作戦」

港側が5G試験電波を流した瞬間、空港内にいた子どもたちは、鼻血や胸の苦しさなどを訴えたのだ。このように5G電波の被曝は、急性症状だけで、これほど恐ろしい。推進側は、このような恐怖の5Gネットワークを地球規模で実現させようとしている。そのとき地球は、人類はどうなるのだろう。「5Gが普及すると人類は20億人が死滅するだろう！」

と呼ばれ、上空の軍用機から強力なマイクロ波を地上のイラク兵たちに送り込んだ。するとイラク兵たちは、頭の中に「アッラーの声」が聞こえてきたのだ。その声はこう命令している。「降伏せよ……！」このように、5G電波は本人の氣づかぬうちに、頭の中には人の声を聞かせることすら可能なのだ。

(1) 地球統一政府 (2) 私有財産禁止  
(3) 職業自由禁止 (4) 大幅人口削減  
(5) 強制移住実施 (6) 教育最低強制  
(7) 全宗教は禁止 (8) 反対運動弾圧  
(9) 国家子供没収 (10) 企業國家管理

（アジェンダ21 より）

政府だ。彼らは、とつくるの昔にイルミナティの走狗なのだ。  
だから、大衆は繰り返しの“洗脳”で「ワクチンがコロナを防いでくれる」と信じるようになる。  
まさに羊の群を追い立てるのと同じだ。

体は『遺伝子ワクチン』なのだ。  
従来のワクチンは、ウイルス株を培養して、弱毒化し、それらを注射する。それを「抗原」として胎内に「抗体」を造らせようとす。しかし、実際に、ワクチンが感染症を予防したという客観的エビデンス（証拠）は存在しない。それどころか、ワクチン接種が伝染症を加速し、拡大させたという事例は数え切れないほどである。

ベツカー博士は、この技術を深く憂えている。「他人を『自殺』させたり、『暗殺』させるこも  
可能になるだろう……」

これはもはや「奴隸社会」といふものではない。「家畜社会」である。「闇の支配者」たちは、この暗黒社会（ディストピア）を目指しているのだ。

## ●コロナ・ワクチンの恐怖

つまり、5G普及の真の狙いは、況々文句の「高速通信」ではない。

だ。人類の“洗脳”と“家畜化”なのだ。闇の支配者イルミナティの中だ。彼らは、人類を古来“ゴイム（獸）”と呼んできた。将来彼らがめざすのが「新世界秩序（NWO）＝ニューワールド・オーダー」

コロナパンデミックを仕掛け、他方で「それを防ぐ」と騙してワクチン利権を狙う。体のいいマッチポンプだ。それも日々連日、はやし立てているのがテレビ、新聞や

ウイスコンシン医科大学・前教授の高橋徳博士。「コロナウイルス・断片DNAを体内に注入する。そして、体内でウイルスの蛋白質を合成させる」という。人類が「まだやつたことがない。全員モルモットです」。これは驚くべき情報だ。

つまり、コロナ・ワクチンの正

多くの感染症の事例を見ると例外なく感染が完全終息してからワクチン接種している！つまり、「伝染病を防ぐ効果はない」ことを“闇の勢力”は知っているのだ。だから“予防”接種という言葉 자체がペテンだ。

なのに、彼らは学界や教育、メディアでは「ワクチンが、流行を終息させた」と嘘をばら撒いてき

そのワクチンにも恐ろしい罠が潜んでいた。「それはワクチンではない！ 遺伝子治療です」声を大にして訴えるのは、米国ウイスコンシン医科大学・前教授の高橋徳博士。

痘予防接種ですら、歐州各国で強制されるやいなや爆発的に感染を蔓延させたのだ。

数多くの感染症の事例を見ると、例外なく感染が完全終息してからワクチン接種している！

「コロナウイルス・断片DNAを体内に注入する。そして、体内でウイルスの蛋白質を合成させるという。人類が今までやつたことがない。全員モルモットです。これは驚くべき情報だ。

つまり、「伝染病を防ぐ効果はない」ことを「闇の勢力」は知っているのだ。だから「予防」接種という言葉自体がペテンだ。

なのに、彼らは学界や教育、メディアでは「ワクチンが、流行を終息させた」と嘘をばら撒いてき

たのである。

さらに加えて、今回、『やつら』が企んでいる『DNAワクチン』は、さらに質が悪い。

なぜ『遺伝子』そのものを体内に注入しようとしているのか？

それは、誰も新型コロナウイルスを“持っていない”からだ。だから、従来法では、ワクチンの作りようがない。

そもそも、新型コロナウイルスを発見した、とされるのは、中国の研究者のみ。武漢での感染者から採取したウイルスを“感染ウイルス”として、そのDNA配列「ゲーム」を解読遺伝子バンクに登録。雑誌『ネイチャ』に発表した。全世界の研究者の情報源はこれだけ。実に心もとない話だ。だからウイルス培養によるワクチン製造は不可能。

「だから彼らは、新型コロナの棘に着目した。ここだけのDNA配列を取り出し、それを人間に注射する。すると筋肉細胞が『CO

VID-19』の棘蛋白質を合成し、負う、という。

それが『抗原』になるという

(高橋博士)

そんなアクロバティックな発想がはたしてうまく行くのか？

## ●国家が買上げ、被害も尻拭い

研究者たちが懸念しているのは、

今回のDNAワクチン開発は肝心の動物実験がすっかり飛ばされていることだ。これも前代未聞だ。

つまり、動物実験をやっているところに、コロナが終息してしまう。まさに荒っぽい論法でワクチン開発が加速されている。このワクチン開発で見逃せないのが国家と製薬会社とのズブズブの癒着だ。

これは、国民に不当な損害を与える「特別責任」行為だ。

国民もワクチン幻想の“洗脳”

から目覚めるべきだ。ワクチンの正体そのものが、“生物兵器”な

のだ。1972年、すでにWHOは極秘文書で「予防接種を偽装し

た“生物兵器”を開発する」と記

ることがない。

このような異常な契約は聞いた

ことがない。つまり、製薬メーカーは国によ

る丸ごと買い上げに加えて、被害者に関する製造者責任は一切免除

される。これは恐るべき利益供与

である。逆に言えば、一切のワクチ

ン被害などの責任はすべて国家

(国民)に担保される。わかりや

すく言えば、製薬メーカーの尻拭

いを、我々国民が血税でやらされ

る、ということだ。

これは、国民に不当な損害を与

える「特別責任」行為だ。

国民もワクチン幻想の“洗脳”

から目覚めるべきだ。ワクチンの正体そのものが、“生物兵器”な

のだ。1972年、すでにWHOは極秘文書で「予防接種を偽装し

た“生物兵器”を開発する」と記

「不妊剤」を混入して、第三世界で強制的に接種させる。

まさに、悪魔の所業だ。それをやつらはすでに着々と実行してきた。ワクチンの目的は、金儲けと人口削減なのだ。

さらに「不妊剤」以外にも、ワクチンには、アジュバントが、密かに混入されている。

すでに100種類近い“添加物”が使われていながら、彼らは企業秘密を理由に明らかにしない。

もつとも、これから恐ろしいのは、マイクロチップの混入だ。

それは“ナノ・サイズ”で目に

は見えない。しかし、体内に入る

と、そのあらゆる情報をモニター

(監視)し、それを外部の人工知能(AI)に送信する。つまり、

このチップは、家畜の耳に付けられ

ている選別タグと同じ働きをす

るのだ。

こうして、人類家畜化計画は完了する。

ビル・ゲイツは「ワクチンで10

～15%の人口削減は可能だ」と公

言している。つまり、ワクチンに